

## 24年間、問い続けてきた情報公開

9月議会の一般質問では、情報公開条例を取り上げました。議員になって24年になりますが、この間、ずっと取り上げてきたのが情報公開制度です。情報公開請求で、裏で隠れていた問題が明らかになったり、疑問に感じていたことが経緯を含め明らかになったケースが結構ありました。

田中前市長時代、何度も情報公開請求をやってきましたが、情報公開条例の壁でなかなか情報が得られないことが続きました。当時指摘した情報公開条例の問題点は、①「知る権利」が明記されていない、②公文書を「決裁後のもの」に限定していることなどでした。

### 条例改正後もそれが生かされていなかった

櫻井市長になって情報公開条例が大幅に改正され、知る権利の明記や公文書を「職務上作成し又は取得し、組織的に用いるもの」ならメモも含むなど、ようやく他市並みになりました。ところが条例改正後の情報公開請求で公開された公文書が、決定に至る経緯の文書が添付されていないことが多々あったのです。聞いてみるとそのような文書はないということでした。

### 公文書が残っていれば後日、検証できる

最近では、コストコに関する情報公開請求で公開された公文書で、立地協定書の締結に関し伺いの決裁文書がありました。6月の予算決算委員会で立地協定書の締結に当たり環境部署と協議したのかと質したところ、担当部長は「協議をした」と答弁しました。それならなぜ、情報公開請求をした時にその時の公文書が添付されなかったのかということになります。結局は、公文書として残すという仕事がされていませんでした。

重要な市の意思決定時の経緯などを記した公文書が残っていれば、後日、その意思決定が正しかったのかどうかを市民や議会が検証出来ます。

### 市が職員に通知 「メモや内部検討資料も対象」

6月議会の総務委員会で「職員が情報公開条例第2条を十分に理解せずに行っているのではないか」との指摘をしたところ、市が8月に職員宛に通知文書を出しました。「公文書の考え方について正しく認識する必要」があるとして情報公開条例第2条を詳しく解説し、「メモや内部検討資料であっても、請求対象の公文書となり得ます。」と。

この議会報告は毎月月初めに発行しています

好きです 亀山 住みよい街に

2022年 10月 2日 発行 No. 280

## こうきの議会報告

日本共産党亀山市議会議員 服部 孝規

〒519-0156 亀山市南野町6-19-1

ご意見、ご感想は [kouki.giin@gmail.com](mailto:kouki.giin@gmail.com) ツイッターでも発信中

電話、FAX 0595-82-3646 市議団ホームページ「共産党 亀山」で検索を

## 市と統一協会の関わり

### 櫻井市長は「一線を画す」と答弁

今年は梅雨入り以降の天候が本当におかしかった。一言で言えばずっと梅雨状態だった。間違いなく地球温暖化の影響だ。今を生きる私たちの責任で住み続けられる地球を残さなければならない。そんな危機感を覚える昨今だ。

さて、9月議会の一般質問で市と統一協会(名称変更したが、カルト集団であることは変わっていないという意味で以前の呼び名を使う)との関わりを質しました。まず、統一協会の関連団体が主導したとされる四日市市の「ファイト三重！県民まつり」に櫻井市長がメッセージを送った問題を取り上げ、市長の見解を質しました。

櫻井市長は、他市のイベントだったから送ったとのみ答弁しましたが、櫻井市長のメッセージが統一協会にお墨付きを与えたことは問題だとその政治的な責任を質しました。櫻井市長は統一協会との関係について「私自身は一切関与していないし、一線を画していく」と答弁しました。

### 過去10年間、市への寄付、補助金の支出はない

また各部署に統一協会やその関連団体から寄付を受けたり、補助金を出したことはなかったのか質しました。市は「過去10年間調査したが、寄付や補助金の支出はなかった」と答弁しました。ただ、10年以上前のことは不明であり、今後出てくる可能性は否定できません。

## 統一協会は反社会的カルト集団

一般質問の冒頭で、統一協会に対する日本共産党の見解を紹介しました。党は統一協会は、2つの顔を持っているとし、一つは靈感商法、集団結婚などで甚大な被害を出している反社会的カルト集団の顔、もう一つは統一協会と表裏一体の政治組織「国際勝共連合」(共産主義に勝利するための国際連盟)をつくり、反共と反動の先頭に立ってきた顔があると指摘しています。

## 駅前再開発事業 成功とは言えない

9月議会の子算決算委員会では、JR亀山駅前再開発事業を取り上げました。まず昨年度決算ですが、予算現額が22億8,547万円なのに、支出済額が11億6,836万円にとどまり、執行率は何と51%でしかありません。

市はその理由を色々と答弁しましたが、結局は国が予算を付けてくると年度内に使え切れなくても予算化し、結局は残りを繰り越して翌年度に使うということが常態化しているからです。

### 乗降客数 ピーク時の3分の1にまで減少



次に、再開発事業は10月21日に建物の引き渡しが予定され、おおよそ完成に近づいてきました。そこでこれまでを振り返ってみました。駅前の再開発事業が成功するかどうかは駅利用者数が大きく左右します。

そこでピーク時と事業の前と現在のJR亀山駅の乗降客数を聞きました。答弁では、1966(昭和41)年がピーク時で12,000人もいたのですが、事業前や現在では4,000人台にまで減少していることがわかりました。ピーク時の3分の1です。これでは再開発事業をやっても賑わいは生まれません。

### 11世帯が4世帯に 地域コミュニティが壊された

また事業の前には、新図書館やマンションのある地域(2ブロック)に11世帯が住んでいましたが、事業後には4世帯にまで減ります。零細な地権者は、マンションの床をもらうことが出来ず、他の地域に出て行く「自由」だけ与えられます。結局、国と市による「地上げ」が再開発事業の本質であり、この地域のコミュニティを壊してしまいました。

### 商業施設には入居者が決まらず

さらに再開発事業が進んでも商業施設には入居者が決まらず、このままでは空き店舗のままオープンを迎えそうです。新しくなった市道の東側(3ブロック)は、店舗がたった1つ(地域の人は「ポツンと一軒家」と呼ぶ)で、あとは駐車場という姿です。こうしてみるとこの再開発事業が成功したとはとても言えない状況です。これが現在の私なりのこの事業の総括です。

## 市民にも議会にも説明せず 駅前広場にヤマトタケルの銅像を設置へ

9月議会の最中に突然出てきたのが、JR亀山駅前広場の銅像設置です。9月5日にヤマトタケル・オトタチバナヒメ銅像建立実行委員会から亀山市に銅像の寄付の申し出がありました。実行委員会では、名誉市民の中村晋也氏に銅像の制作を依頼し、亀山駅前広場に設置したいとしています。

### 委員会では「検討」 その日のうちに庁議で決定



これを受けて13日～15日の各常任委員会での問題が取り上げられました。特に14日の教育民生委員会では、市は「(設置場所は)駅前に限定されていない」、「これからどうするか検討する」というものでした。

ところが櫻井市長はその日のうちに庁議を開き、寄付を受けること、駅前広場に設置することなどを決めてしまいました。その上、台座の費用まで市が負担すると言い、急遽27日の議会最終日に提案される(採決まで)ことになりました(写真は銅像設置予定の場所)。

### 櫻井市長が銅像建立実行委員会の顧問だった

この問題を調べてみたら、櫻井市長が銅像建立実行委員会の顧問だったことが判明しました。当初は自分が関わっていない市民団体からの寄付のように言っていたのですが、実際には何年も前からすべてを知っていたのです。

それなのに、各常任委員会で担当者に「駅前とは決まっていない」、「これから検討」と答弁させ、その日のうちに庁議(副市長や教育長などで構成)で決めてしまい、全く議会を無視しました。

### 市が台座の費用を負担する必要は全くない

実行委員会の文書には、協賛金募集は「銅像:ブロンズ像(約2m)及び台座」をつくる事業だとし、集まった協賛金の用途はこの事業の経費に充てると明確に書いています。つまり、市が台座の費用を持たなければならない必要は全くありません。

この台座の費用を市が持つために、最終日(27日)の本会議に急遽、議案が出されますが、この号の締め切りが25日なので結果をお知らせできません。次号で報告します。